



れんげそう

令和5年12月1日
福生第五小学校
学校通信第556号

「自分の命は自分で守る」

校長 泉田 巧人

いよいよ師走となりました。令和5年もあと一か月です。今年の5月に新型コロナウイルス感染症が5類となり学校の教育活動も徐々に平常の戻ってきた1年でした。

さて、保護者の皆様にもお知らせしていますように、本校は令和4・5年度と東京都教育委員会の「安全教育推進校」に指定され、地域の実情も踏まえ、災害安全を中心に安全教育の学習を進めてきました。11月22日(水)に、その



安全教育推進校の公開授業で使用した自動販売機

成果を全都に広めるため、公開授業と研究発表会を開催しました。公開授業では、全ての学級に様々な関係機関の専門家を外部講師として招いて授業を行いました。子どもたちは、それぞれの専門家の話を熱心に聞き、生き生きと授業を受けていました。災害時に起こり得る危険なことや行動する上で大切なこと、備えておかなければならないことなど、自分では気が付けなかった新たな視点を見出すことができました。掲載の写真は、避難所等に支援し社会貢献している企業の方から、実際の自動販売機を使ってローリングストックや災害時に水分補給のために開放される仕組みについて教えてもらったものです。また、避難所生活では、炭水化物系が主になってしまうが、栄養や脱水症状等にも気を付ける必要があることを教えてもらいました。安全教育で培う資質や能力は、自らの命と他者の命に直結し、安全で安心な生活を送るために、誰もが身に付けておかなければならないものです。政府は平成26年(2014年)に、首都直下型大地震が発生する確率は、今後30年で70%であるという数字を出しています。また、今年に関東大震災復興100年の年にもあたります。研究発表会で講演をいただきました、文部科学省の安全教育調査官 木下 史子 様から、講演の最後に「居安思危(こあんしき) 思則有備(しきそくゆうび) 有備無患(ゆうびむかん)」という中国の故事が紹介されました。これは「安(やす)きに居(あ)りて危(あや)うきを思(おも)う 思(おも)えば則(すなわ)ち備(そな)えあり 備(そな)えあれば患(うれ)い無(な)し」と訳します。つまり、「平常時から災害のことを考え知っておけば、災害について何とかしようとする備えに結び付き、備えるので何かあっても心配することなく大丈夫」ということです。「備えあれば患いなし」だけが有名になってしまったのですが、その前の「知る」「考える」事が大切なのです。「自分の命は自分で守る」ために、いつ起こってもおかしくない災害に備え、御家庭でも今一度話合いの機会をもってはいかがでしょうか。

一年間子どもたちは、たくさんを経験し成長してきました。日々の頑張りを御家庭でもたくさん褒めて、認めていただきますようお願いいたします。年の瀬を迎え、あわただしさが増してくるとは思いますが、健やかに新年を迎えられますようお祈りいたします。令和5年も本校に御支援と御協力をいただきました全ての方々に感謝申し上げます。ありがとうございました。